



高校生を対象とした公開授業科目(第2学期) および夏の体験授業シラバス ～2026年度版～



「シラバス」とは・・・

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。
一般に、授業名、担当教員名、講義目的、
各回ごとの授業内容などが記されており、
学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものです。



香川大学マスコットキャラクター

【お問い合わせ】

香川県教育委員会 高校教育課 教育指導グループ

〒760-8582 高松市天神前6-1
TEL 087-832-3750 FAX 087-806-0232

香川大学 教育・学生支援部 教育企画課

〒760-8521 高松市幸町1-1
TEL 087-832-1147 FAX 087-832-1155

※授業内容に関するお問い合わせは香川大学まで。

【公開授業科目(第2学期)】

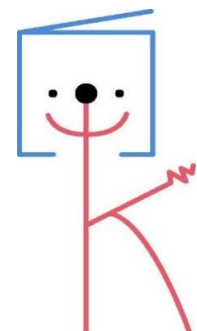
授業科目名	教養/専門(注1)	担当教員	期間(注2)	曜日	時間	頁
国際協力論A	教養教育	木下 康光 (インターナショナルオフィス)	10月8日～11月26日 (計8回)	木	16:20～17:50	1～2
健康と疾病	教養教育	星野 克明 (医学部)	10月8日～11月26日 (計8回)	木	16:20～17:50	3
子どもの視座から教育を考える	教養教育	山岸 知幸 (教育学部)	12月3日～2月15日 (計8回)	木	16:20～17:50	4
こころとからだの科学	教養教育	泉川 美晴 (保健管理センター)	12月7日～2月8日 (計8回)	月	16:20～17:50	5
知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	教養教育	野々村 敦子 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日 (計8回)	-	オンデマンド (e-Learning)	6
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピュータシミュレーション	教養教育	岡崎 慎一郎 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日 (計8回)	-	オンデマンド (e-Learning)	7～8
知プラe科目 災害とデータサイエンス	教養教育	石塚 正秀 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日 (計8回)	-	オンデマンド (e-Learning)	9
憲法入門	専門教育	岸野 薫 (法学部)	10月8日～2月4日 (計15回)	木	16:20～17:50	10
政治思想	専門教育	金子 太郎 (法学部)	10月2日～2月5日 (計15回)	金	16:20～17:50	11
国際関係論	専門教育	鶴園 裕基 (法学部)	10月5日～2月1日 (計15回)	月	16:20～17:50	12
観光学概論	専門教育	山崎 隆之 (経済学部)	10月6日～2月2日 (計15回)	火	16:20～17:50	13
経済学入門A(夜間主コース)	専門教育	天谷 研一 (経済学部)	10月2日～11月27日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10	14
経済学入門B(夜間主コース)	専門教育	渡部 陸 (経済学部)	10月6日～12月1日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10	15
公共経済学(夜間主コース)	専門教育	福村 晃一 (経済学部)	12月8日～2月9日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10	16～17
証券市場論(夜間主コース)	専門教育	藤原 敦志 (経済学部)	12月4日～2月12日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10	18

- (注1) 香川大学の教育は、特定の専門分野に限定されない幅広い知識・能力を養う「**教養教育(全学共通科目)**」と、専門職業人を養成するための「**専門教育(学部開設科目)**」とから成ります。
1年次の間は教養教育を中心に、2年次以降は専門教育を中心に学びます。
- (注2) 授業スケジュール編成の都合上、一部の授業においては、通常とは異なる曜日に開講したり、休講になったりすることがあります。
詳細は、25～26ページの「2025年度行事予定表」をご参照ください。
(昼間と夜間主コースで授業スケジュールが異なります。お間違えのないようにお願いします。)
- (注3) 状況により、一部の授業またはすべての授業が遠隔実施となる場合があります。
その場合はパソコンとインターネットの通信環境が必要となります。
- (注4) 初回授業の前にガイダンスを行います。初回が対面授業の場合は、開始20分前に香川大学幸町北キャンパス 大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。
初回が遠隔授業の場合は、別途お知らせいたします。

【夏の体験授業】

講座名	開設学部	期間	曜日	時間	頁
科学・技術の面白さを体験しよう	創造工学部	7月22日(水) ～7月24日(金)	-	午前の部: 10:00～13:00 午後の部: 14:00～17:00	19～22
農学部サイエンスアドベンチャー2026	農学部	8月7日	金	10:00～11:20 研究室紹介 11:30～12:00 施設探検	23～24

**大学の授業には、いろんな「気づき」があるよ。
その「気づき」を高校に持ち帰ってみよう。
高校の授業の見方も変わってくるはず！
大学生との交流も良い刺激になるよ！**



<p>授業科目名 国際協力論A Introduction to international cooperation A</p> <p>担当教員名 木下 康光</p>	<p>時間割 10月8日(木)～11月26日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回)</p> <p>初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。</p>
<p>学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習(事前学習15時間+事後学習15時間)</p>	
<p>授業の概要 <キーワード> 開発途上国、国際協力、開発協力、開発、持続可能な開発目標(SDGs)、政府開発援助(ODA)、JICA 本授業では、開発途上国が抱える貧困や環境問題など、当該国のみでは解決が困難な課題を取り上げ、日本を含む国際社会がどのように国際協力・開発協力に取り組んでいるのかを考察する。開発途上国の課題解決に向けた国際協力／開発協力の基本的な仕組みや具体的な取り組みを理解するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)の視点を踏まえ、日本として政府開発援助(ODA)等を通じてどのような協力を行うべきかについて考えていく。 また、本科目では、レポート作成における受講生自身の調査等を通じて、課題探求のプロセスに実践的に関与することができる。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。</p>	
<p>授業の目的 開発途上国の課題は、国際社会全体で取り組むべき重要な現代的課題であり、日本においても、政府開発援助(ODA)をはじめとする国際協力・開発協力の意義や役割を理解することが求められている。本授業は、こうした国際的・社会的背景を踏まえ、開発途上国の課題と国際協力の仕組みを体系的に理解し、日本が国際社会の一員として果たすべき役割について主体的に考える力を養うことを目的とする。また、講師の国際協力分野における豊富な実務経験を踏まえた実践的な内容を通じて課題探求に取り組むことで、現代社会の諸課題に向き合うための基礎的・かつ実践的な思考力・判断力を身につけることを目指す。</p>	
<p>到達目標</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発途上国が直面している貧困、環境問題などの主要な課題を理解し、その背景や構造を説明できる。 2. 国際社会および日本が行っている国際協力・開発協力の基本的な仕組み(ODA、JICA等)を理解し、具体例を挙げて説明できる。 3. 持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を踏まえ、開発途上国の課題と国際協力の関係を整理・分析できる。 4. 日本としてどのような国際協力・開発協力が望ましいかについて、自らの考えを論理的にまとめ、発信できる。 	
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>	
<p>【授業の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目は原則、対面授業を行う。なお状況によっては、一部をオンライン授業に変更する可能性がある。 ・授業は、基本的に、教員が準備する資料による講義形式を中心とする。毎回のテーマに関連する動画等映像資料を使用することがある。 ・開発途上国の現場で活躍する国際協力機構(JICA)の職員、JICA海外協力隊経験者、JICA外の組織で国際協力／開発協力を携わった経験のある講師、または香川大学の留学生等を招いて授業を行うことがある。 ・ディスカッション、質疑応答、また、Moodleを利用して受講生と教員間の双方向のコミュニケーションをとりながら授業を進めることがある。受講生の積極的な意見等のインプットによる貢献を期待する。 ・期間中6回のミニレポートの課題を出す。ミニレポートの提出締切は、授業の最後の数十分間を使って作成し授業終了時に締め切りとする回、または授業日以降に締め切りを設定する回の2つのパターンを予定している。 <p>【授業計画】</p> <p>第1回 オリエンテーション(国際協力／開発協力について学ぶ準備)</p> <p>第2回 開発途上国の現状</p> <p>第3回 国際協力／開発協力の担い手と協力の手法(スキーム、ツール)</p> <p>第4回 開発途上国における持続可能な開発目標(SDGs)</p> <p>第5回 開発途上国で国際協力／開発協力の現場で働いた経験者(JICA協力隊等)の体験談</p> <p>第6回 ケーススタディ(1):SDGsゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」の達成を目指す国際協力プロジェクト(2025年度実績)</p> <p>第7回 ケーススタディ(2):SDGsゴール4「質の高い教育をみんなに」の達成を目指す国際協力プロジェクト(2025年度実績)</p> <p>第8回 まとめ(45分)</p> <p>上記は予定であり、世界で起きている問題に応じて内容を変更することがある。特に、第6回と第7回のケーススタディは、受講生の関心分野等によってとりあげるSDGsの分野を変更する可能性がある。</p> <p>【自学自習のためのポイント・アドバイス】</p> <p>自学自習時間30時間は目安である。各回の予習・復習にかかる時間は、受講生の能力や問題・関心に応じて所要時間が変わってくるが、受講生は世界で起きていることに常に目を向け関心を持ち探求していくことを期待する。自学自習のポイントは以下のとおり。</p> <p>第1回 「国際協力／開発協力」とは何か。なぜ、日本や世界の各国や地域は何故お互いに協力していかなければな</p>	

らないのか、自分の考えを整理してみよう。

第2回 開発途上国とは何か。どこにあるのか。自分が関心をもつ開発途上国少なくとも1か国の現状について調べて、それらの国の課題を考察してみよう。

第3回 国際協力／開発協力を担う人材は、どのような組織に所属しどのような仕事をしているのか、また国際協力／開発協力のメニュー（ツール）について調べてみよう。

第4回 持続可能な開発目標（SDGs）について、日本の外務省、国際協力機構（JICA）、国連等国際機関等のホームページ等から情報を集め、自分自身が関心をもつSDGsの開発目標と課題解決のための実際の取り組みについて調べてみよう。

第5回 JICAの役割は何か。その中でも特に海外協力隊の具体的な仕事と役割は何か。国際協力機構（JICA）のホームページ等で調べてみよう。

第6回（2025年度の場合）SDGsゴール5の内容を調べ、そのゴールに対して国際協力機構（JICA）、国連機関等の国際社会が取り組んでいる仕事について調べてみよう。

第7回（2025年度の場合）SDGsゴール4の内容を調べ、そのゴールに対して国際協力機構（JICA）、国連機関等の国際社会が取り組んでいる仕事について調べてみよう。

第8回 授業7回を通して、自分が最も関心をもった開発途上国とその国の特定の問題・課題を抽出し、どのような手法、アプローチでそれらの問題・課題を解決に導いていくか、自分自身の考えを提案してみよう。

教科書・参考書等

教科書：指定なし。適宜、参考文献、ウェブサイト等を紹介する。

参考書：大河原誠也編『国際協力がってなんだ？～つながりを創るJICA職員の仕事～』（筑摩書房、2025）980円＋税
野中郁次郎編『日本型開発協力とソーシャルイノベーション～知識創造が世界を変える～』（千倉書房、2024）3,000円＋税

『国際協力キャリアガイド2026～国際協力の新時代～』（国際開発ジャーナル社、2025）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

<メッセージ>

1. 授業で取り上げた国・地域や自分自身の関心のある国・地域の理解を深めるため、自分自身で書籍やインターネット等を探求していくことを期待する。
2. 将来、国際協力／開発協りに携わる仕事に関心がある受講生に対しては、担当教員の経験とネットワークをもとにキャリア相談が可能。

授業科目名 健康と疾病 Relationship between health and disease 担当教員名 星野 克明	時間割 10月8日(木)～11月26日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + まとめのレポート作成45分×1回 + 自学自習(準備学習 10時間 + 事後学習 20時間)	
授業の概要 【キーワード】 感染症、生体防御反応 我々生物が病原体から身を守ろうとする一方で、病原体は生物から排除されまいとしている。この関係の中で、生物と病原体は共に進化してきたと考えられている。本授業では、人類にとって不可避である感染症について、人類と病原体の関係を概説する。そして、医学の発展により人類が得た「健康」を保つための戦略について説明する。今後の社会で健康に生き続けるための知識・情報を提供する。この科目では、受講生が幅広い視野をもって学べるよう、分野横断型の授業方法を取り入れている。 この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。	
授業の目的 我々にとって最も身近な疾病である感染症の歴史を学ぶ。続いて、病原体が感染する仕組みと、感染した時にみられる生体防御反応を学ぶ。さらに、感染症に対抗するための方法(予防法、診断法、治療法)について学び、医学の発展による健康の向上について考える。21世紀社会を健康に生き延びるための教養を身につける。	
到達目標	
1, 身近な疾病としての感染症の歴史を説明することができる。 2, 病原体の感染メカニズムについて説明できる。 3, 感染症に対する防御応答を概説できる。 4, 疾病に対する人類の戦略について概説できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
本授業は全て講義形式で、1回ずつが独立したテーマです。各担当教員がコンピューターや資料を用いて、授業計画のテーマで講義を行います。各授業時間の最後の15分程度を、ミニレポート作成やミニテストの時間にあてます。最後の8回目に、まとめのレポート作成を行います。 【授業計画】 第1回 (星野) イントロダクション、感染症から自分のからだを守る仕組みについて 第2回 (星野) 炎症が原因となる疾患 第3回 (千葉) ”かたちの変化”から疾患を理解する:病理学という領域 第4回 (横田) 感染症と人類の歴史 第5回 (桑原) 腸内マイクロバイオーームと疾患感受性 第6回 (星野真) 臨床検査と疾患 第7回 (仁木) 体を守る抗体、体を壊す抗体 第8回 (星野) 免疫応答の人為的制御(ワクチンなど)(前半)、まとめレポート(後半) この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によって一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。 【自学自習に関するアドバイス】 第1回 「免疫」とは何か調べる(4時間)。 第2回 予習は必要ありませんが、事後学習を行い理解を深めて下さい(4時間)。 第3回 予習は不要ですが、講義で取り上げた内容のうち興味を持ったトピックスについて深掘りしてみてください(4時間)。 第4回 疫病の流行と社会の関係について調べてみる(中世のペスト、天然痘、新型インフルエンザなど)(4時間)。 第5回 腸内細菌叢が私たちの健康維持にどのように役立っているのかについて予め学習すること(4時間)。 第6回 予習は必要ありませんが、事後学習を行い理解を深めて下さい(4時間)。 第7回 抗体の構造と機能について調べる(4時間)。 第8回 ワクチンについて調べる(2時間)。 授業で扱われる内容は、いずれも専門的な内容です。インターネット等を活用し、準備学習、事後学習することが望ましいです。	
教科書・参考書等 特に指定しません。各授業毎に必要なに応じてプリント資料を配布する場合があります。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 出席を毎回取ります(ミニレポートやミニテストの提出が出席としてカウントされます)。	

授業科目名 子どもの視座から教育を考える Thinking about Education from a Child's Viewpoint	時間割 12月3日(木)～2月15日(月) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回)
担当教員名 山岸 知幸	1月14日(木)は、月曜日の振替授業のため、授業はありません。 2月15日(月)は、木曜日の振替授業のため、授業があります。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に学生会館2階 (27ページ参照)にお越しください。
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(事前学習15時間+事後学習15時間)	
授業の概要 この授業では、21世紀社会の諸課題として教育問題を取り上げます。まず、我が国の戦後教育の変遷を理解します。その上で、今日的な教育課題でもある3つの教育問題(子ども論、教師論、部活動論)に焦点を当て、資料(文献・新聞記事)を精読するとともに、グループで話し合うことを通して、子どもの視座に立つ本質的な「課題」を導き出していきます。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。 【キーワード】 教育問題、教育課題	
授業の目的 21世紀社会でも様々な教育改革が進み、それらへの対応が求められている。自己の経験・体験を大切にしつつも、教育改革の変遷の歴史の中で現在の教育を理解し、また客観的に教育課題の本質的なものを発見できるようになる。	
到達目標	
1. 戦後教育改革の歴史の文脈の中で、教育問題を考えることができる。 2. 教育問題の中から、その本質的な「課題」を発見できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1回 我が国における「教育」の変遷－戦後新教育から現在まで－ 第2・3回 子ども論－子ども理解とは、子どもを受容するとは－ 第4・5回 教師論－教師の役割とは、教師に求められる資質・能力とは－ 第6・7回 部活動論－部活動の意味とは、個と集団との関係性とは－ 第8回 まとめと小レポート作成 【授業及び学習の方法】 配付資料を精読し(個人ワーク)、その上で、グループで意見交流・討論(グループワーク)を行います。グループでの意見を集約し発表してもらいます。その後、質疑・応答を行うかたちで授業を進めます。この科目は原則として対面で授業を行います。 配付資料を何度も読み返し精読してください。グループ発表で出てきた視点も参考にしつつ、自己の考えをより深めていってください。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 我が国の戦後教育史の年表を各自の視点から完成させる。(3時間) 第2・3回 配付資料を精読するとともに、近年の受容や子ども理解に関わる論文もしくは著書を探し、比較・検討しながら考察する。(9時間) 第4・5回 近年の教師論に関わる論文もしくは著書を探し、授業時に紹介できるように整理・準備する。(9時間) 第6・7回 それぞれが興味をもっている部活動に関わる新聞記事を集め、授業時に紹介できるように整理・準備する。(9時間)	
教科書・参考書等 毎時資料を配付します。参考書は随時紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 配付資料を精読すること、グループ討議では積極的に意見交流することに努めてください。復習がとりわけ重要になります。	

授業科目名 こころとからだの科学 Psychology and Health Science	時間割 1 2月7日(月)～2月8日(月) 毎週月曜日 16時20分～17時50分(計8回)
担当教員名 泉川 美晴	1月14日(木)は、月曜日の振替授業のため、授業がありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に学生会館2階(27ページ参照)にお越しください。
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)	
授業の概要 【キーワード】 心身の健康科学 我々が社会的にも文化的にも豊かな生活を送る上で、心身の健康を自然科学的および人文科学的に分析することは重要なことである。世の中にはいわゆる「健康」といわれる状態にある人もいれば、「不健康」といわれる状態にある人もいるが、大切なことは、「心身の健康状態を自らの人生の中にどのように位置づけるか」、あるいは、「どのようにマネジメントしていくか」ということなのではないだろうか。 この授業では、大学生活において、学生が自身の健康をマネジメントしつつ、社会的にも文化的にも充実した人生を過ごすためには、普段の生活の中でどのような点に留意する必要があるかについて、「心身の健康科学」という自然科学的・人文科学的テーマから概説していく。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。	
授業の目的 心身の健康科学について、青年期や大学生活に関係する事柄を具体的に学ぶことで、心身両面から健康に対する関心を高め、より身近な自然科学的・人文科学的な問題として理解を深めることを目標とする。	
到達目標	
1. からだの健康・疾患・疾患予防について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。 2. 青年期におけるこころの健康について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。 1, 2は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
第1回 オリエンテーション 第2回 からだの科学(1) 第3回 からだの科学(2) 第4回 からだに関する様々な問題(1) 第5回 からだに関する様々な問題(2) 第6回 こころとからだに関する様々な問題(1) 第7回 こころとからだに関する様々な問題(2) 第8回 まとめ この科目は対面授業を行います。 <自学自習のアドバイス> ① 自学自習としてヘルストピックス講演会に出席することが必須です。ヘルストピックス講演会の日程等は授業で説明します。ヘルストピックス講演会に出席できない場合は指定されたレポートを提出することが必要です。レポートの内容、提出期限等については授業で説明します。 ② 第1回 オリエンテーションで出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第2回 からだの科学(1)で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第3回 からだの科学(2)で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第4回 からだに関する様々な問題(1)で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第5回 からだに関する様々な問題(2)で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第6回 こころとからだに関する様々な問題(1)で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第7回 こころとからだに関する様々な問題(2)で出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(4時間) 第8回 まとめで出てきた専門用語について図書、文献を用いて調べましょう。(2時間) ③ 図書、文献を用いて調べるときに、古い図書や文献を読んだ場合、現代では学説が変化している場合があるので、複数の新しい文献を用いて確認しましょう。 ④ インターネットの情報を調べて調べる場合は、大学、研究機関、学術機関、政府機関など信頼の置ける情報を用いて調べましょう。	
教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業の進行状況によって授業内容は多少変更されることがあります。	

授業科目名 知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理 Disaster mitigation and crisis management using data science	時間割 10月2日～12月2日(計8回:e-Learning)
担当教員名 野々村 敦子, 梶谷 義雄, 地元 孝輔, 寺尾 徹	初回のガイダンスは行いません。受講決定後に「知プラe科目を受講される高校生の方へ(受講上の注意)」を配布します。
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間+事後学習 16時間)	
授業の概要 【キーワード】データサイエンス、防災・減災、危機管理 日本は地震や台風など大きな自然災害による被害を受けている。環境変化により従来にない大規模自然災害が発生する可能性が高まり、さらには社会システムの高度化・複雑化・国際化にともない、これまでにない災害が発生する危険性も増大している。いま、自然・人為的な災害に対応可能なレジリエント(しなやか)な社会の構築が求められている。本講義では、自然災害の軽減を念頭にデータサイエンスによる防災・危機管理のあり方と、地域における災害に対する安全・安心について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。 この科目では、リスクにかかわる知識・技能/現代社会におけるリスクについての知識を習得することができます。この科目では、情報学、統計学に関する知識・技能/これからのデジタル社会を生きるうえで必要な知識を習得することができます。	
授業の目的 レジリエント(しなやか)な社会の構築に向け、防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を学び、さらに、データサイエンスに立脚した地域の安全・安心を議論できるようになる。	
到達目標 1. レジリエント(しなやか)な社会とは何かを説明できる。 2. 防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を説明できる。 3. 地域における災害に対する安全・安心を、自分の言葉で説明できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1回 データサイエンスによる地震動予測の新しい展開(地元孝輔) 第2回 地球温暖化に伴う気候変動の検出とそのリスクの見積りに係わるビッグデータ解析(寺尾徹) 第3回 ビッグデータを用いた地球温暖化にともなう現在気候に対する将来気候の評価(寺尾徹) 第4回 移動体・画像解析技術による災害復旧過程の分析(梶谷義雄) 第5回 流量予測への深層学習の適用と豪雨災害リスクの評価(梶谷義雄) 第6回 データサイエンスを活用した防災・危機管理～地形情報の活用 基礎編～(野々村敦子) 第7回 データサイエンスを活用した防災・危機管理～地形情報の活用 実践編～(野々村敦子) 第8回 まとめ 【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 毎週のコメントシートの作成に関しては、地域における災害に対する安全・安心に結びつけるためにどのような能力が必要か、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。 【e-Learning科目の履修に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/ 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 データサイエンスによる地震動予測の新しい展開(5時間) 第2～3回 地球温暖化対策の経緯とこれまでに行われてきた対策についても学び理解を深める(10時間) 第4～5回 災害からの復旧復興について事例を調べて理解を深めて災害リスク把握の意義を考える(10時間) 第6～7回 講義で取り上げた地域以外でも地形情報の活用を実践する(10時間)	
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義は、e-learning形式での提供となります。	

<p>授業科目名 知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション Building a resilience society and computer simulation</p>	<p>時間割 10月2日～12月2日(計8回:e-Learning)</p>
<p>担当教員名 岡崎 慎一郎, 地元 孝輔, 宮本 慎宏, 吉田 秀典</p>	<p>初回のガイダンスは行いません。受講決定後に「知プラe科目を受講される高校生の方へ(受講上の注意)」を配布します。</p>
<p>学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間+事後学習 16時間)</p>	
<p>授業の概要 【キーワード】データサイエンス、レジリエンス、コンピューターシミュレーション コンピューターシミュレーションは、「第3の科学」とも言われ、自然科学、工学、経済学、社会科学における理論・システムを数理モデルで表現し、コンピューターを用いて仮想実験や事象予測を行う技術である。今日では、製造業における工業製品の設計や新規材料の開発、自然現象の解明による災害対策、社会インフラ整備のための構造物設計・安全評価、金融・ビジネスにおけるマーケティングなど多様な分野において欠かすことができない。とりわけ、ビッグデータとAIなどの数理技術との融合により、製品の設計・製造プロセスの最適化、公共インフラの維持と保安水準の向上、津波・地震等の災害予測精度の向上、安価かつ環境性の高い電力・エネルギー製造と供給、テーラーメイド医療・予防サービス普及による医療費削減など、幅広い分野において新しい価値を創造することが期待されている。本講義では、レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要について担当教員がそれぞれの専門分野の立場から説明する。 この科目では、リスクにかかわる知識・技能/現代社会におけるリスクについての知識を習得することができます。 この科目では、情報学、統計学に関する知識・技能/これからのデジタル社会を生きるうえで必要な知識を習得することができます。</p>	
<p>授業の目的 レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を学び、さらに、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を議論できるようになる。</p>	
<p>到達目標</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. レジリエントな(強靱化)社会とは何かを説明できる。 2. レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を説明できる。 3. コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を、自分の言葉で説明できる。 	
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>	
<p>【授業計画】 第1週 AI等を用いた社会インフラのヘルスチェック(岡崎慎一郎) 第2週 大規模シミュレーションが可能とする社会インフラの長寿命化(岡崎慎一郎) 第3週 振動シミュレーションに基づく建築物の安全性評価(宮本慎宏) 第4週 地盤モデルを用いた地盤震動シミュレーション(地元孝輔) 第5週 震源モデルを用いた強震動シミュレーション(地元孝輔) 第6週 都市モデルを活用した高潮/津波/ため池氾濫シミュレーション(吉田秀典) 第7週 都市モデルを活用した広域避難シミュレーションと復興政策の検討(吉田秀典) 第8週 まとめ</p> <p>【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 毎週のコメントシートの作成に関しては、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心の重要性等について、文献等事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。特に、以下に留意して学習してください。なお、括弧内は、自学自習時間の目安です。 第1週 社会インフラにおけるヘルスチェックの事例を調べて理解を深める(5時間) 第2週 社会インフラの長寿命化の意義を考える(5時間) 第3週 建築物の安全性評価の重要性について考える(5時間) 第4週 地盤震動におけるシミュレーションの必要性について考える(5時間) 第5週 地震学/地震工学におけるシミュレーションの必要性について考える(5時間) 第6週 高潮/津波/ため池の氾濫におけるシミュレーションの意義について考える(5時間) 第7週 災害時の避難に関する課題点を調べ、その解決方法について自身なりの考えをまとめる(5時間) 第8週 レジリエントな社会の構築に関して、講義で取り上げた以外の事案についても、どのようにシミュレーションが活用されているのかを調べ、その意義、必要性、重要性について理解を深める(2.5時間)</p> <p>【e-Learning科目の履修に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/</p>	

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

授業科目名 知プラe科目 災害とデータサイエンス Disaster and Data Science	時間割 10月2日～12月2日(計8回:e-Learning)
担当教員名 石塚 正秀, 磯打 千雅子, 白木 渡, 竹之内 健介	初回のガイダンスは行いません。受講決定後に「知プラe科目を受講される高校生の方へ(受講上の注意)」を配布します。
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間+事後学習 16時間)	
授業の概要 【キーワード】データサイエンス、災害、防災・減災 防災に活用できる科学的なデータとしては、災害に関するデータと、それを観測するテクノロジーについて、災害前(災害が起こっていない日常の時点と、災害が起こる直前)と災害後(直後、そしてライフライン復旧が求められる事後)という2つのステージでの議論が重要である。「災害前」としては、例えば、気象データなどは、雨量や温度、湿度、気圧などのデータが各地の気象観測所で集められ、また人工衛星から、可視光線、赤外線、電波などのセンサーを使って地表や地中を観測しデータが収集されている。このようにローカルからワールドワイドにいたる様々なデータを活用し、各種の災害情報が作成され、防災や減災に役立てられる。「災害後」としては、被災地に近い定点観測地点や衛星からのデータ、そして現場周辺のユーザーが発信しているデータなどが避難等に重要である。また、オープンデータの活用によって、国や自治体等と住民が連携しながら二次災害の減災に寄与することもできる。本講義では、こうした「災害」に係るデータの活用方法について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。この科目では、リスクにかかわる知識・技能/現代社会におけるリスクについての知識を習得することができます。この科目では、情報学、統計学に関する知識・技能/これからのデジタル社会を生きるうえで必要な知識を習得することができます。	
授業の目的 レジリエントな(強靱化)社会構築において重要なデータ(常時観測データ、被災地発信データやオープンデータ等)の収集・活用方法を学び、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心を議論できるようになる。	
到達目標 1. 災害前と災害後におけるデータの活用の違いが何かを説明できる。 2. 災害前におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。 3. 災害後におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1週 ビッグデータでみる地球環境(石塚正秀) 第2週 ビッグデータでみるWater Risk(石塚正秀) 第3週 オープンデータから見るまちの強み弱み診断と地区防災計画、事業継続計画BCPへの活用(磯打千雅子) 第4週 リスクコミュニケーションとデータサイエンス(竹之内健介) 第5週 ローカルデータとデータサイエンス(竹之内健介) 第6週 自助・共助・公助ならびに災害レジリエンスの強化とデータサイエンス(白木渡) 第7週 リスクマインドと心のレジリエンス(白木渡) 第8週 まとめ(石塚正秀) 【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 第1～2回 地球環境・水危機に対するビッグデータの利用について理解を深める(10時間) 第3回 地区防災計画、事業継続計画BCPに対するオープンデータの活用について理解を深める(5時間) 第4～5回 リスクコミュニケーションとローカルデータについて理解を深める(10時間) 第6～7回 災害レジリエンスとリスクマインドについて理解を深める(10時間) 【e-Learning科目の履修に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/	
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義は、e-learning形式での提供となります。	

授業科目名 憲法入門 Introduction to Constitutional Law	時間割 10月8日(木)～2月4日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 岸野 薫	1月14日(木)は、月曜日の振替授業のため、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に学生会館2階(27ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習45時間)	
授業の概要 本学部では、憲法科目として、1年次に総論(憲法入門)、2年次前期に統治論(憲法Ⅰ)、2年次後期に人権論(憲法Ⅱ)が開講されています。総論分野を扱う本授業では、憲法の基礎理論を概観したのち、日本国憲法の歴史および基本原理(国民主権・象徴天皇制、平和主義等)について、判例・学説を通じて理解を深めるための授業を行います。	
授業の目的 本授業の目的は、近代憲法の基盤となる思想、すなわち立憲主義とは何かを十分理解し、その上で、日本国憲法の基本原理に関する基礎知識を習得することです。これらの基礎知識の習得により、次のステップである「憲法Ⅰ」および「憲法Ⅱ」で扱う個々の条文の理解を、より深めることができると考えます。	
到達目標	
①憲法総論分野における重要判例および学説について説明することができる。 ②憲法上の論点を的確にとらえ、法的に問題を考察することができる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 憲法の基礎理論(1) 憲法の意味と分類 第3回 憲法の基礎理論(2) 近代立憲主義 第4回 日本国憲法史(1) 明治憲法の特徴 第5回 日本国憲法史(2) 日本国憲法の制定 第6回 象徴天皇制 第7回 国民主権 第8回 中間試験 【注】 中間試験の実施時期は授業の進捗状況によって前後します。正式な実施日は授業の中で伝えます。 第9回 平和主義(1) 平和主義と平和的生存権 第10回 平和主義(2) 憲法9条の解釈 第11回 平和主義(3) 憲法9条をめぐる裁判 第12回 憲法保障(1) 違憲審査制総論ほか 第13回 憲法保障(2) 付随的審査制の基本的枠組み 第14回 憲法改正 第15回 まとめ 【授業の方法】 授業レジュメに沿って講義形式で行います。 ※この科目は全回対面授業を行います。 【自学自習のためのアドバイス】 基本的に、準備学習(予習)より事後学習(復習)が重要となります。 準備学習では、参考書を一読し、不明な箇所を明らかにし(1時間)、事後学習では、授業ノートを整理し、理解が不十分なところを複数の参考書で補うことが望ましいです(2-3時間)。	
教科書・参考書等 教科書の指定は行いません。 初回に参考文献一覧を配布します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業は、「入門」とありますが、入門レベルで日本国憲法の全体像を学ぶ内容ではありません。本授業は、法学部で開講される3つの憲法科目のうちの1つであり、3つの憲法科目は、扱う分野がそれぞれ異なります。「授業の概要」に記したように、基本的人権や統治機構の学説・判例は、「憲法Ⅰ」、「憲法Ⅱ」で学ぶため、本授業では扱わないことをご承知おきください。	

授業科目名 政治思想 Political Thought	時間割 10月2日(金)～2月5日(金) 毎週金曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 金子 太郎	10月30日(金)、1月15日(金)は、大学行事の臨時休業のため、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に学生会館2階(27ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習(予習は不要。復習としてその回に配布されたプリントを1時間はかけて読み返して下さい。)	
授業の概要 19世紀から20世紀終わりまでの政治思想、経済思想を扱う。「政治思想」という科目名なのに経済思想も併せて扱うのは、そうしないとこの時代を理解することは不可能だからである。前半は政治思想、後半は経済思想を中心に講義する。 前半の政治思想については、いきなり19世紀から話を始めるのは無理があるので、17世紀から話を始める。17世紀の自由主義の始まりから話を始めて、18世紀の人民主権、19世紀以降の自由民主主義について講義する。後半は主に経済思想について講義する。資本主義、社会主義、共産主義、帝国主義、ケインズ主義、開発主義、市場主義などについて、最低限の政治史の内容と併せて講義する。 【他の授業科目との関連】 「政治学入門」では簡単に触れた程度の政治思想について、そのもとの本・古典を読みながら理解を深める。この時代より前の時代の法思想、政治思想については「法思想史」で聞いて欲しい。世界史の近現代史については「国際関係論」「政治史」で聞いて欲しい。	
授業の目的 19世紀から20世紀という時代に様々な思想がどのように生まれ、展開していったかを大まかな政治史とともに理解すること。	
到達目標 19世紀～20世紀の世界史を政治思想、経済思想の観点から大掴みに理解できるようになること。どういう思想が歴史のどういう経緯で生まれ、どう展開して行き、どういう経緯である思想は生き残り、ある思想は消えて行ったかを理解すること。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
プリントを配布し、口述と板書で説明をしながら進める。プリントの量が非常に多くなるが、これは口述と板書だけで講義する場合よりも伝えられる情報量が何倍も多くなるからである。また政治思想の古典や面白い本を読むきっかけにもなって欲しいと思ってやっていることなので、容赦して欲しい。 (1) イントロダクション (9) 資本主義 (2) 自由主義(1) ロック (10) 社会主義、共産主義；帝国主義 (3) 自由主義(2) モンテスキュー (11) ケインズ主義 (4) 人民主権 ルソー (12) 福祉国家 (5) 保守主義 バーク (13) 開発主義 (6) 自由民主主義 コンスタン (14) 市場主義 (7) 「多数の暴政」 トクヴィル (15) まとめ(比較政治経済体制の視座) (8) 古典的自由主義の完成 J.S. ミル と選挙権の拡大	
【おことわり】 前期の「政治学入門」との連続性を考えて、後半の経済思想の部分と前半の政治思想の部分を入れ替えて講義します。前期の「政治学入門」が1945年の日本の敗戦までなので、「政治思想」では戦後のアジア史をふり返りながら経済思想の話をしていきます。 【自学自習に関するアドバイス】 予習は必要ありませんが、復習として講義で配布したプリントを1時間くらいかけてよく読み返して下さい。 【授業の形態について】 この科目は全回対面授業を行う。ただし、状況によっては全てまたは一部の回の授業形態を遠隔配信へと変更する可能性がある。	
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 参考書は福田歓一『政治学史』(東大出版会)、猪木武徳『経済思想』(岩波書店)、ヤーギン&スタニスロー『市場対国家』(日経文庫)	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	

授業科目名 国際関係論 International Relations	時間割 10月5日(月)～2月1日(月) 毎週月曜日 16時20分～17時50分(計15回)		
担当教員名 鶴園 裕基	10月14日(水)、11月23日(祝・月)、1月14日(木)は、月曜日の振替授業のため、授業があります。 11月2日(月)は、大学行事の臨時休業のため、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(60時間)			
授業の概要 第二次世界大戦終結以後、東西冷戦を経て成立した現代の国際秩序は、いま厳しい挑戦にさらされている。これからの国際社会そして日本はどのように動いてゆく(べき)か。また国際社会を構成する国民国家の一市民として、この状況をいかに理解すればよいのか。以上の問題意識に基づいて、本講義では国際関係論の基礎的な内容を、理論と歴史を包括しつつ紹介していく。また本講義は政治学系に属する基礎科目であるため、平和学、政治史、アジア・太平洋社会論等の科目の知識との関連付けを意識しながら学習することを推奨する。			
授業の目的 国際関係についての概念的な理解の上に、第一次世界大戦以降の国際関係史を把握する。そして国際関係の理論的アプローチとはどのようなものか、それぞれいかなる特徴があるのかを知る。			
到達目標 1. 国際関係の理論と歴史のそれぞれの基本的な特徴を説明できる(「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. その上で、現代の国際関係の諸問題に対して自ら情報を探索できるようになる(「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 国際政治の専門家の分析を批判的に理解できるようになる(「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1週 導入 第2週 第一次世界大戦への過程 第3週 第一次世界大戦とその帰結 第4週 ワシントン体制とヴェルサイユ体制 第5週 国際連盟とその挫折 第6週 理想主義vs. 現実主義 第7週 第二次世界大戦への道 第8週 大戦の終結との冷戦のはじまり </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第9週 グローバル化する冷戦と相次ぐ危機 第10週 デタントから冷戦終結まで 第11週 リアリズム・リベラリズムとその派生理論 第12週 ポスト冷戦期の国際関係 第13週 コンストラクティビズムと英国学派 第14週 現代国際政治の諸問題 第15週 まとめ </td> </tr> </table> <p>【授業及び学習の方法】 講義形式で授業を行う。講義は教員作成のレジュメに基づいて進める。授業参加者にはコメントペーパーの提出を求める。授業中・コメントペーパーの質問は授業への参加度として評価する。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 《予習》 指定した教科書の講義関連箇所とレジュメを読んでおく。講義の内容と関連しそうな国際関係に関するニュースをフォローしておき、講義を受けるに際しての自らの問題意識を設定しておく。</p> <p>《復習》 講義内容に関連したニュース記事や文献を探索して読み(レジュメ内の参考文献リストを利用してもよい)、講義で学んだ内容を掘り下げる。</p> <p>《予習・復習時間の目安》 テキストやニュース記事をどのくらい時間をかけて読むかは、各人の能力や問題関心に依りて変わるものである。あるチャプターを30分で流し読みして「分かったフリをする」ことも可能だろうし(これはこれで重要なスキルの一つである)、ある一つのニュース記事について、30時間かけて「何がわからないかを徹底的につきつめる」必要がある場合もある。どのように予習・復習に取り組むかは本授業に取り組む各人の主体性に任せられている。なお、大学が推奨している予習復習時間の合計は60時間である。</p>		第1週 導入 第2週 第一次世界大戦への過程 第3週 第一次世界大戦とその帰結 第4週 ワシントン体制とヴェルサイユ体制 第5週 国際連盟とその挫折 第6週 理想主義vs. 現実主義 第7週 第二次世界大戦への道 第8週 大戦の終結との冷戦のはじまり	第9週 グローバル化する冷戦と相次ぐ危機 第10週 デタントから冷戦終結まで 第11週 リアリズム・リベラリズムとその派生理論 第12週 ポスト冷戦期の国際関係 第13週 コンストラクティビズムと英国学派 第14週 現代国際政治の諸問題 第15週 まとめ
第1週 導入 第2週 第一次世界大戦への過程 第3週 第一次世界大戦とその帰結 第4週 ワシントン体制とヴェルサイユ体制 第5週 国際連盟とその挫折 第6週 理想主義vs. 現実主義 第7週 第二次世界大戦への道 第8週 大戦の終結との冷戦のはじまり	第9週 グローバル化する冷戦と相次ぐ危機 第10週 デタントから冷戦終結まで 第11週 リアリズム・リベラリズムとその派生理論 第12週 ポスト冷戦期の国際関係 第13週 コンストラクティビズムと英国学派 第14週 現代国際政治の諸問題 第15週 まとめ		
教科書・参考書等 《教科書》 小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ 新版』(有斐閣、2024)、2530円 《参考書》 随時指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 高校世界史・日本史の近代史に関する知識があれば本講義を受講する上で役にたつが、高校でこれらを選択していなくても問題なく理解できるよう講義する。			

授業科目名 観光学概論 Introduction to Tourism	時間割 10月6日(火)～2月2日(火) 毎週火曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 山崎 隆之	初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)	
授業の概要 誰もが経験したことのある旅行(観光)ですが、では改めて「観光とは何か?」と問われると答えに困るのではないのでしょうか。 「観光は地域の総合産業」「観光は地域のまちづくりの総仕上げ」などとも言われるように、観光は単に旅行すること自体に留まらず、地域の色々なものごとに関わりのある人間の行動であり、経済活動です。 この授業では、観光の持つ多様な側面について解説するとともに、現在、全国各地で行われている観光振興のための取り組みについても、できるだけ多くの事例を紹介しします。	
授業の目的 これから観光について学んでいくための足場固めをするために、幅広い観光の分野についての基本的な理解すると同時に、各地の具体的な事例から地域における観光の現状について理解することを目指します。	
到達目標 1. 学んだ概念や用語を使って観光について説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 様々なタイプの観光の実例について具体的に説明できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 観光の持つ魅力や課題について指摘できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「地域に関する関心と理解力」に対応)。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
(1) イントロダクション① 欲望の旅、学びの旅 (2) イントロダクション② 「どっさり」と「ゆったり」 (3) 用語から見る観光 (4) 歴史から見る観光 (5) データから見る観光 (6) 観光資源と観光ルート (7) 観光産業の特徴 (8) 観光産業① 宿泊業 (9) 観光産業② 旅行業 (10) 観光産業③ 交通運輸業 (11) ニューツーリズム① エコツーリズムなど (12) ニューツーリズム② 産業観光など (13) 観光まちづくり① 湯布院温泉の事例 (14) 観光まちづくり② 近年の展開 (15) 観光政策と観光マーケティング 【授業外での学び(自学自習)】 授業の中で観光に関する様々な事例を多数紹介しします。授業内で紹介できるのは、それぞれの取り組みのごく一部でしかないため、興味を持った事例については、インターネットや新聞・雑誌、書籍などで、関連する他の事例などについて調べてみてください。(各授業回前後で4時間、15回の授業全体で60時間程度) 【授業形態】 この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。いずれの場合でも、講義や課題は同じ内容のもので変更ありません。	
教科書・参考書等 教科書：特になし。適宜授業内で資料等を配布します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・授業計画は進捗状況により、変更になる場合があります。変更については授業内で適宜連絡します。 ・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示することがある。	

授業科目名 経済学入門A Introduction to Economics A	時間割 10月2日(金)～11月27日(金) 毎週金曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回) 10月30日(金)は、大学行事の臨時休業のため、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。																
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)																	
授業の概要 ミクロ経済学の基礎を学習します。 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部で開講される様々な科目が、ミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。 ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間にどのような相互関係があるのかを考察します。とりわけ、この相互関係において「市場(マーケット)」が果たす役割を考えます(これに対しマクロ経済学は景気や失業率など国全体の経済に焦点をあてます)。																	
授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学の手法により理解する。																	
到達目標 1. 完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 2. ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動や消費者行動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 3. 市場均衡を持つ資源配分のメカニズムを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 4. ミクロ経済学の理論をどのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる。																	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス																	
【授業計画】 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 経済学とはどのような学問か</td> <td style="width: 50%;">第9回 市場の失敗と政府の役割</td> </tr> <tr> <td>第2回 個人の選択を考える</td> <td>第10回 独占</td> </tr> <tr> <td>第3回 消費者行動と需要曲線</td> <td>第11回 競争政策</td> </tr> <tr> <td>第4回 生産者行動と供給曲線</td> <td>第12回 外部性</td> </tr> <tr> <td>第5回 市場均衡</td> <td>第13回 公共財</td> </tr> <tr> <td>第6回 市場均衡の効率性</td> <td>第14回 ゲーム理論</td> </tr> <tr> <td>第7回 規制の効果</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回 課税の効果</td> <td></td> </tr> </table> 【授業および学習の方法】 授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。 【自学自習のためのアドバイス】 毎回授業内容を復習しわからないことをなくすとともに、参考書の関係箇所を読み、宿題を解く。(各回4時間×15回) 【授業形態】 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性があります。		第1回 経済学とはどのような学問か	第9回 市場の失敗と政府の役割	第2回 個人の選択を考える	第10回 独占	第3回 消費者行動と需要曲線	第11回 競争政策	第4回 生産者行動と供給曲線	第12回 外部性	第5回 市場均衡	第13回 公共財	第6回 市場均衡の効率性	第14回 ゲーム理論	第7回 規制の効果	第15回 まとめ	第8回 課税の効果	
第1回 経済学とはどのような学問か	第9回 市場の失敗と政府の役割																
第2回 個人の選択を考える	第10回 独占																
第3回 消費者行動と需要曲線	第11回 競争政策																
第4回 生産者行動と供給曲線	第12回 外部性																
第5回 市場均衡	第13回 公共財																
第6回 市場均衡の効率性	第14回 ゲーム理論																
第7回 規制の効果	第15回 まとめ																
第8回 課税の効果																	
教科書・参考書等 【教科書】 特に指定しない。 【参考書】 安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』新版、有斐閣、2022年、2100円+税																	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 授業内容は連続しているため、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。 2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。																	

授業科目名 経済学入門B Introduction to Economics B	時間割 10月6日(火)～12月1日(火) 毎週火曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。																
担当教員名 渡部 陸																	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備20時間+事後学習(課題を含む)40時間の計60時間)																	
授業の概要 経済学の初学者へ向け、マクロ経済学の基礎的な考え方を現在の日本経済の状況と照らし合わせ解説します。マクロ経済学はミクロ経済学と合わせ、経済学の土台となる考え方を扱います。特にマクロ経済学ではGDPや物価水準、利子率、失業率などの経済指標の観点から一国全体の経済状況を分析します。また本講義では、マクロ経済学の各種トピックを幅広く扱い、マクロ経済理論の説明にとどまらず実際の日本経済との対応に注目します。																	
授業の目的 マクロ経済学の基礎的な考え方を学び、一国の経済状況が決定される仕組みを理解することを主目的とします。また経済政策の効果や日本経済の現状を把握し、今後の日本経済について考察することができるようになることを目指していきます。本講義を受講することで経済・社会の動向を把握するための考え方の一助となります。																	
到達目標 1. マクロ経済を構成する要素と各経済主体の役割を理解し、説明することができる。 2. 現在の日本経済の問題点を理解し、それに対処する政府の政策効果について説明、また分析することができる。 3. 日本の経済成長の現状と各国との違いを理解し、今後日本経済の成長に必要な要素を考察することができる。																	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス																	
【授業計画】 <table border="0" style="width:100%;"> <tr> <td>第1回 授業ガイダンス、マクロ経済学のトピックの紹介</td> <td>第9回 少子高齢化の影響</td> </tr> <tr> <td>第2回 GDPの計測</td> <td>第10回 財政赤字</td> </tr> <tr> <td>第3回 企業と家計のつながり(1):消費と生産、財市場</td> <td>第11回 日本の経済成長の概観、各国との比較</td> </tr> <tr> <td>第4回 企業と家計のつながり(2):貯蓄と投資、資金市場</td> <td>第12回 経済成長の仕組み、生産関数</td> </tr> <tr> <td>第5回 労働市場、失業</td> <td>第13回 経済成長モデル</td> </tr> <tr> <td>第6回 所得分配、格差</td> <td>第14回 新しい経済成長論</td> </tr> <tr> <td>第7回 政府の役割</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回 税と社会保険料</td> <td></td> </tr> </table> <p>上記の授業計画は受講生の理解度に応じて変更することがあります。</p> 【授業および学習方法】 授業ではスライド、板書を用いて進めます。また講義内容は各回が独立しているわけではなく、前回までの内容を踏まえて新しい説明・解説を行っていきます。そのため積極的な授業の参加、以下に記載している予習、復習を行うことをお勧めします。 【自学自習のアドバイス】 ・予習 1～15回 各講義前に講義スライドをダウンロードし、内容に目を通しておいてください。(各1時間の計15時間程度) 日々の経済ニュースにも目を通し、様々な経済用語、事象に触れてみてください。(計5時間程度) ・復習 1～14回 各講義の内容を練習問題と合わせて復習を行い、各講義スライドに含まれる演習問題に取り組んでください。また扱った内容が日本経済とどのように対応するか自主的に調べてみるとより理解が深まると思います。(各2時間の計28時間程度) ・課題に向けて 複数回の課題を実施する予定です。各課題でこれまで扱った内容についての問題に取り組んでください。また課題の復習をしてわからなかった箇所については質問に来てください。(計4時間程度) 【授業形態】 ・本科目は基本的に対面方式で実施予定です。状況に応じて遠隔に変更する可能性があります。		第1回 授業ガイダンス、マクロ経済学のトピックの紹介	第9回 少子高齢化の影響	第2回 GDPの計測	第10回 財政赤字	第3回 企業と家計のつながり(1):消費と生産、財市場	第11回 日本の経済成長の概観、各国との比較	第4回 企業と家計のつながり(2):貯蓄と投資、資金市場	第12回 経済成長の仕組み、生産関数	第5回 労働市場、失業	第13回 経済成長モデル	第6回 所得分配、格差	第14回 新しい経済成長論	第7回 政府の役割	第15回 まとめ	第8回 税と社会保険料	
第1回 授業ガイダンス、マクロ経済学のトピックの紹介	第9回 少子高齢化の影響																
第2回 GDPの計測	第10回 財政赤字																
第3回 企業と家計のつながり(1):消費と生産、財市場	第11回 日本の経済成長の概観、各国との比較																
第4回 企業と家計のつながり(2):貯蓄と投資、資金市場	第12回 経済成長の仕組み、生産関数																
第5回 労働市場、失業	第13回 経済成長モデル																
第6回 所得分配、格差	第14回 新しい経済成長論																
第7回 政府の役割	第15回 まとめ																
第8回 税と社会保険料																	
教科書・参考書等 教科書の指定はありません、以下の参考書の内容を踏まえて講義スライドを配布します。 【参考書】 柴田章久、宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』、有斐閣、2013年、¥1,900+税 平口良司『入門・日本の経済成長』、日本経済新聞出版、2020年、¥2,300+税 二神孝一『マクロ経済学入門 第3版』、日本評論社、2017年、¥2,200+税																	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. あらかじめ講義スライドをダウンロードして予習復習に努めてください。またわからないところがある場合はそのままにせず、遠慮なく授業後やオフィスアワーの時間に質問に来てください。																	

授業科目名 公共経済学 Public Economics	時間割 12月8日(火)～2月9日(火) 毎週火曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。																
担当教員名 福村 晃一																	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習17時間+事後学習43時間合計60時間)																	
授業の概要 ミクロ経済学の応用分野である、公共経済学における様々な理論上の概念について主に講義する。それにより、ミクロ経済学(経済学入門Aなど)で学習した手法を応用して、現実の社会における様々な経済現象を解釈するために必要な能力を養成する。																	
授業の目的 現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を、経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念について学ぶことができる。その結果、官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、公共経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得することができる。																	
到達目標 1. 公共経済学で用いられている概念を理解し、現実の経済現象に当てはめて説明できるようにする。 2. 公共経済学で用いられている概念を活用し、現実の経済活動から生じる様々な問題を、経済学を用いて解決する方策を考えられるようにする。																	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス																	
以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。適宜練習問題をスライドなどで示すので、式展開や結果の解釈、専門用語の定義などを独力で説明できるようにすること。その際、宿題を不定期に課すので、自分の理解を過不足なく言語化して解答を作成すること。なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 この科目は原則全回対面授業を行います。なお、社会状況によっては全て又は一部の回の授業形態が遠隔となる可能性があります。																	
【授業計画】 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 講義の概要説明、公共経済学のイントロダクション</td> <td style="width: 50%;">9. 価格規制</td> </tr> <tr> <td>2. ミクロ経済学の基礎の復習1(需要曲線・供給曲線)</td> <td>10. 所得再分配</td> </tr> <tr> <td>3. ミクロ経済学の基礎の復習2(余剰)</td> <td>11. 租税</td> </tr> <tr> <td>4. 公共財</td> <td>12. 年金</td> </tr> <tr> <td>5. 最適な公共財供給</td> <td>13. 経済政策</td> </tr> <tr> <td>6. 外部効果</td> <td>14. 財政の持続可能性</td> </tr> <tr> <td>7. 独占</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 寡占</td> <td></td> </tr> </table>		1. 講義の概要説明、公共経済学のイントロダクション	9. 価格規制	2. ミクロ経済学の基礎の復習1(需要曲線・供給曲線)	10. 所得再分配	3. ミクロ経済学の基礎の復習2(余剰)	11. 租税	4. 公共財	12. 年金	5. 最適な公共財供給	13. 経済政策	6. 外部効果	14. 財政の持続可能性	7. 独占	15. まとめ	8. 寡占	
1. 講義の概要説明、公共経済学のイントロダクション	9. 価格規制																
2. ミクロ経済学の基礎の復習1(需要曲線・供給曲線)	10. 所得再分配																
3. ミクロ経済学の基礎の復習2(余剰)	11. 租税																
4. 公共財	12. 年金																
5. 最適な公共財供給	13. 経済政策																
6. 外部効果	14. 財政の持続可能性																
7. 独占	15. まとめ																
8. 寡占																	
【自学・自習へのアドバイス】 自学・自習の時間は、以下のように合計60時間程度をかけることを想定している。各回の前後とも、それまでの講義の内容について、専門用語・式展開などの説明、計算結果の解釈を行い、そのうえで、報道・書籍などで紹介されている、さまざまな現実の経済現象との関連について考えることを想定している。また、宿題の解答なども想定している。 第1・2回 事前学習：身の回りの経済現象について、調べてみる。(2時間) 事後学習：二次関数の最大・最小といった、高等学校の数学、需要曲線・供給曲線について復習を行う。(6時間) 第3・4回 事前学習：事前配布された資料を読み、余剰概念について復習する。(2時間) 事後学習：余剰や公共財の分類について復習する。(6時間) 第5・6回 事前学習：事前配布された資料を読み、公共財や外部性の具体例について予習する。(2時間) 事後学習：公共財の最適供給の水準の導出や外部性への対処法について復習する。(6時間) 第7・8回 事前学習：事前配布された資料を読み、独占や寡占の具体例について予め考えておく。(2時間) 事後学習：独占や寡占の影響とそれらの対処法について復習する。(6時間) 第9・10回 事前学習：事前配布された資料を読み、価格規制や所得再分配のさまざまな政策の具体例について予め考えておく。(2時間) 事後学習：価格規制や所得再分配政策の影響とそれらの対処法について復習する。(6時間) 第11・12回 事前学習：事前配布された資料を読み、税や年金の実態について予め考えておく。(2時間)																	

<p>事後学習： 税や年金の経済学を通じた分析とそれらの是非について復習する。(6時間)</p> <p>第13・14回</p> <p>事前学習： 事前配布された資料を読み、経済政策や財政の現状について予め考えておく。(2時間)</p> <p>事後学習： さまざまな経済政策とそれらの影響について復習する。(6時間)</p> <p>第15回</p> <p>事前学習： これまで配布された資料を読み、期末試験へ向けての復習を行う。(3時間)</p> <p>事後学習： 期末試験の解答と自分の答案を確認し、知識などの定着を確認する。(1時間)</p>
<p>教科書・参考書等</p> <p>講義資料をもとに講義を行うため、教科書は購入する必要はない。ただし、講義内容は「公共経済学(第2版)」、小川光・西森晃、中央経済社、2022年、2,300円+税、をもとにしているため、必要であれば購入すること。旧版でも問題はない。</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>経済学やそれを応用した科目は、練習問題・試験問題が解ければ、理解したといえるような科目ではありません。理解のためには、数式の背後にある仮定・概念・理屈、そしてそこから導き出される結論を教科書・講義とは別の自分なりの言い方で説明することが重要です。面倒がらずに、言語化する練習をしましょう。</p>

授業科目名 証券市場論 Asset Pricing	時間割 12月4日(金)～2月12日(金) 毎週金曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 藤原 敦志	1月15日(金)は、大学行事の臨時休業のため、授業はありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に大学会館2階(27ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)	
授業の概要 この授業では、企業の過去をまとめた「会計」と、企業の未来を考える「ファイナンス」との関連性に焦点を当てる。主に日本経済新聞や経済雑誌の記事を用いながら、基本的な財務諸表の見方や様々な株価指標、ファイナンスを活用した経営の重要性、上場することの意義やコーポレートガバナンスの問題、買収やM&Aの効果などについて、様々な企業の実例を紹介しながら解説していく。	
授業の目的 この授業は、企業を財務や経営企画などの面から評価・改善することができる人材を養うことを目指す。近年、金融のグローバル化に伴って、特に上場企業には透明性の高い経営やコンプライアンスを重視した経営が求められている。それが投資家の評価を通して、資金調達や企業の成長を左右している。また企業組織のあり方や企業文化も変革を迫られている。この授業では、そのような課題に対して実際の企業がどのように向き合おうとしているのかを考えていく。	
到達目標	
①資本市場で企業が投資家から評価されるポイントを説明できる。 ②財務諸表からその企業の課題を探し出すことができる。 ③株価重視の経営について自分の意見を述べることができる。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
授業は原則として対面とする。 毎回のテーマに関連した日本経済新聞や雑誌の記事などを配布して、順番に学生を当てながら授業を進めていく。 ①ガイダンス：ファイナンス思考の重要性 ②損益計算書(PL)の見方・貸借対当表(BS)の見方 ③キャッシュフロー計算書(CF)の見方 ④ROEとROA ⑤資本コストと投資判断 ⑥企業は誰のものか：様々なステークホルダー ⑦上場の意味 小テスト① ⑧コーポレートガバナンス・コード ⑨東証の再編 ⑩PBRとPER ⑪物言う株主(アクティビスト)と同意なき買収 ⑫MBOと非上場化 ⑬M&A ⑭事業再生の手法 小テスト② ⑮まとめとレポートの書き方 【自学自習に関するアドバイス】 毎回、予習としてそれまでに配布した資料を読んでおく(2時間×15)。また復習として、自分で企業の財務諸表や株価を調べてみたり、レポートにまとめたりする(2時間×15)。	
教科書・参考書等 (教科書) 使用しない (参考書) 三好秀和(著)『ストーリーで学ぶCFO講座—アントレプレナー香山潤三—』同友館。 朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子(著)『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ファイナンスの考え方は企業で働く際にいろいろ役に立つので、積極的に授業に参加してほしい。	

講座名	大学体験授業「科学・技術の面白さを体験しよう」		
開設学部	創造工学部	講師(代表者)	鶴町 徳昭
開設期間	7月22日(水) ～7月24日(金)	講義時間	午前の部:10:00～13:00 午後の部:14:00～17:00
実施場所	創造工学部(林町キャンパス) 2号館、6号館、 ものづくり工房	受入可能人数	各テーマ 25名
講座の趣旨等	<p>創造工学部の教育・研究分野に関する内容を高校生の皆さんに知ってもらい、実験を交えた講義を通して創造工学部の基礎である科学・技術に触れて、その面白さを実感してもらうことを主な目的にしています。(対象とするのは高校1、2、3年生です。)</p> <p>この講座を受講してもらうことで、高校での数学・物理・化学・生物などの勉強が将来の大学での勉強や研究にどのようにつながるかが、高校生の皆さんにわかり易くなると考えています。</p>		
講座の概要等	<p>この講座で取り上げる内容は、創造工学部のスタッフが研究している領域と関連しているものです。内容のレベルは高校の物理・化学の進度を想定して考えています。高校生の皆さんが興味を持てるように、実験・観察およびデモンストレーションをなるべく行うようにしています。実施予定のテーマは以下のようなもので、それぞれ午前または午後の部で完結するようになっています。</p> <p><u>1日目(7月22日(水))</u> (午前)「サングラスを作ろう(真空蒸着による薄膜の作製)」 (午後)「光に反応する高分子を見て・触れて・学ぼう」</p> <p><u>2日目(7月23日(木))</u> (午前)「光の向きを変えると何が起こる?—偏光の不思議を体験しよう—」 (午後)「Web ページの仕組みを知ろう」</p> <p><u>3日目(7月24日(金))</u> (午前)「化学反応を色素の変化で体感しよう」 (午後)「電子回路(FPGA)を使ってストップウォッチとルーレットを作ってみよう」 <u>詳細は別紙を見てください。</u></p>		
参考書等	<p>筆記用具を用意してください。 各テーマについてこちらで準備した資料を配付します。(参考書は必要なし)</p>		
受講上の注意	<p>特に危険な実験等はないので安心して参加してください。また、創造工学部(林町キャンパス)への途上での交通事故などに注意して創造工学部(林町キャンパス)へ来てください。</p>		
高校生へのメッセージ等	<p>各テーマの講義や説明はなるべく平易に行う予定ですが、質問・疑問があるときは気軽に聞いてください。また、実験にも積極的に参加してください。実際に体験することで科学・技術の面白さがより深く分かります。</p>		

別紙

1. テーマ名 「サングラスを作ろう（真空蒸着による薄膜の作製）」

1.1 概要

情報化の波は、一般の人の生活中にもどんどん浸透しています。例えば、パソコンや携帯電話、AI などの普及は大変なスピードです。これらの情報機器に不可欠となっている IC や LSI、などの電子デバイスには、ナノオーダーの薄い膜、薄膜が用いられています。薄膜はその他にもサングラスやメガネ、カメラのレンズなどにも用いられています。この体験授業では、薄膜とは何か？



どのようなところに使われているのか？について勉強します。また実験として、真空蒸着という方法で実際にメガネのレンズに薄膜を作製し、そのようすを観察します。

1.2 講義内容

薄膜はいろいろな用途で用いられます。

- ・サングラス・メガネやカメラの光学レンズ(光学的な用途について勉強しましょう)
- ・IC や LSI(電気・電子関係の用途、デバイスのしくみについて勉強しましょう)
- ・太陽電池(どのような仕組みになっているか勉強しましょう)
- ・液晶ディスプレイ(どのような仕組みになっているか勉強しましょう)

1.3 実験

百聞は一見にしかず。真空蒸着という方法で薄膜を作製してみましょう。薄膜ができるようすを観察すると、ミクロンオーダーのうすい薄膜のことが見えてきます。

2. テーマ名 「光に反応する高分子を見て・触れて・学ぼう」

2.1 概要

高分子は、プラスチックやゴム、ビニールなど、身の回りに数多く使われており、その性質は化学組成や分子同士のつながり方によって大きく変わります。

本テーマでは、光に反応する高分子に注目し、光を当てることで高分子を合成する技術（光重合）を体験します。この技術は、コンタクトレンズの製造、ジェルネイルの硬化、半導体の製造工程などに利用されています。また、光照射によって色が変わる現象（フォトクロミズム）も体験します。実験を通して、高分子の構造と性質の関係、そして光を利用して材料に様々な機能を持たせる技術の一端を学びます。

紫外線照射



2.2 講義内容

身の回りの高分子の例を紹介した後、光と物質の相互作用、電磁波の種類、そして紫外線が高分子の機能化にどのように利用されるかを説明します。あわせて、光に反応する高分子材料の実用例についても紹介します。

2.3 実験

①光重合 | コンタクトレンズにも使われている材料の一種を用い、光を当てて高分子を合成します。材料の化学組成や架橋剤の添加量によって高分子の硬さや溶けやすさがどのように変化するかを調べます。②フォトクロミズム | 光によって色が変わる現象を体験し、分子の構造変化が色の变化として現れることを体験します。

3. テーマ名 「光の向きを変えると何が起こる？—偏光の不思議を体験しよう—」

3.1 概要

光には強さや色だけでなく、「振動の向き（偏光）」という性質があります。本講義では、この偏光によって光の見え方や振る舞いがどのように変わるかを、身近な現象と簡単な実験を通して体験します。さらに、大学で行われている最先端の光技術や量子技術とのつながりについて紹介します。

3.2 講義内容

まず、実際の研究装置を用いたデモを通して、光の向きが変わると光の強さが変化する現象を観察し、その特徴を考えます。次に、偏光の基本的な概念を学び、ガラス反射やディスプレイなど身近な例を通して、その性質を理解します。最後に、偏光が光導波路を用いた光集積回路や、最先端の光技術、量子技術にどのように利用されているかを紹介します。

3.3 実験・工作

偏光板を用いた簡単な実験を行い、光の向きによって見え方が変化する現象を体験します。また、身の回りの物体を偏光板越しに観察し、偏光依存性を調べます。最後に、偏光を利用した「見えるけど触れない壁」を作製し、光の性質を実感します。



4. テーマ名 「Web ページの仕組みを知ろう」

4.1 概要

みなさんは毎日のように Web ページを見ていると思います。リンクを開くとすぐにページが表示されますが、その裏側でどのようなことが起きているか考えたことはありますか。本講義では、リンクを開いたときにどのようにデータがやり取りされているのかを、実際にコマンドを使いながら確認していきます。その後、簡単な Web ページ作りにも挑戦し、インターネットや Web の仕組みを体験しながら理解します。初めての方でも丁寧にサポートするので安心して参加してください。



4.2 講義内容

まず、インターネット（世界中のコンピュータがつながっているネットワーク）について学びます。次に、Web（インターネットを使って情報をやり取りする仕組み）について説明します。最後に、HTML（Web ページを作るための言語）を使って、自分で Web ページを作ってみます。

4.3 実験・工作

講義とあわせて、実際にコンピュータでコマンドを入力しながら実験を行います。まるで映画に出てくるハッカーになったような気分でも楽しんでもらえると思います。また、Web ページ作りでは、実際の現場でも使われているツールに触れてもらいます。

5. テーマ名 「化学反応を色素の変化で体感しよう」

5.1 概要

色素は、絵具や塗料、ケミカルライトなど、身の回りの様々なところで利用されています。本授業では、科学マジックで良く知られる「ブルーボトル反応」を取り上げ、色素の化学反応を色の変化を通して体験学習します。

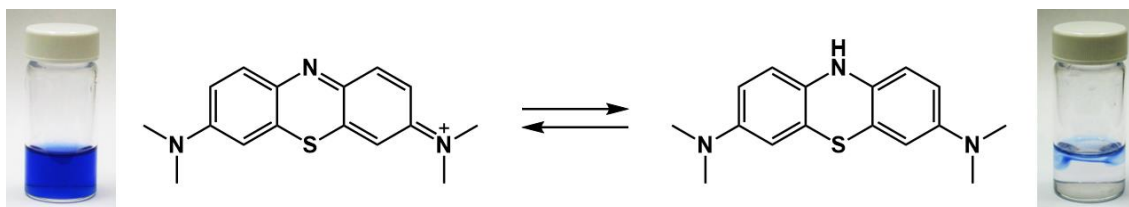
5.2 講義内容

メチレンブルーという色素に注目し、化学構造について学びます。次に、化学構造と色・性質の対応を学びます。さらに、メチレンブルーの青色が消失し、再び呈色する様子を観察し、化学反応を体感してもらいます。

5.3 実験・工作

①ペットボトルに、メチレンブルー、グルコース、水を加え、水溶液を加えます。温度、振とう、空気との接触時間などの条件を変え、化学反応の速度の関係を調べます。短時間で速やかに色を変化させ、マジックとして演示するための条件を探ります。

②別の色素を用いて、三色の変化に挑戦します。



6. テーマ名 「電子回路(FPGA)を使ってストップウォッチとルーレットを作ってみよう」

6.1 概要

近年、さまざまな電子機器（例えば携帯電話やテレビ等）において使われている集積電子回路（FPGA：書き換え可能なLSI）を用いて、簡単なストップウォッチとルーレットを作製します。コンピューターなどに使われているデジタル回路の演習にもなります。



6.2 講義内容

デジタル回路の話、2進数の説明をした後に、配布するサンプルプログラムを集積電子回路であるFPGAに転送し、LEDを光らせます。次に、簡単な例題を解く演習を行った後に、FPGAを用いてストップウォッチ等の作製を行います。最後にFPGA上に載せたAIによる物体認識のデモを紹介します。

6.3 実験

VHDLと呼ばれるハードウェア記述言語を用いてプログラミングを行い、ストップウォッチとルーレットを作製します。作製したあとで、スイッチを押して動作確認を行います。一人一台の実習ボードを用意しますので、各自のペースで作製できます。

講座名	農学部サイエンスアドベンチャー2026 ～知っているようで知らない「農学部の研究」～		
開設学部	農学部	講師	(研究紹介) 柳田 亮・豊田 鮎
開設期間	8月7日(金)	講義時間	10:00～11:20 研究室紹介 11:30～12:00 施設探検
実施場所	三木町農学部キャンパス	受入可能人数	25名
講座の趣旨等	香川大学農学部では農業生産からバイオテクノロジーまで、とても幅広く興味深い研究が進められています。本講座では、「農学部の研究」について理解を深め、興味や関心を持ってもらうことを目的としています。		
講座の概要等	<p>「香川大学農学部だからこそ」の研究をバイオ分子化学コースとフィールド環境コースから1つずつ紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚毒から広がる最新研究：中くらいの環を持つ分子の面白さ ・土壌生態系の資源と空間をコントロールする土壌動物 <p><ケミカルバイオロジー研究室> 人類は古くから様々な植物「魚毒」を利用して漁業を行ってきました。魚毒の本体は低分子有機化合物ですが、その中には6員環、9員環、11員環など様々な大きさの環を持つものが多く存在します。本講座では、魚毒研究の歴史と創薬を指向した最新の天然物ケミカルバイオロジー研究などについて紹介します。</p> <p><土壌生態学研究室> 土壌は常に変化します。その変化には土地利用、農業の方法、気象や地形のほかに土壌にアクセスする大型中型哺乳類、土壌に生息する小さな動物も関わっています。本講座では「生態系改変者、エコシステムエンジニア」とよばれる土壌動物の働きについて紹介します。</p> <p><施設探検> 「香川大学農学部の中に工場？」全国でも「香川大学農学部」にしかない研究施設「希少糖生産ステーション」を探検し、「希少糖生産だけじゃない香川大学の学び」の秘密についてリサーチします。また、暑さが平気な人は、圃場で様々な農作物の研究の様子を視察します。</p> <p>午後からは、午前中に紹介した研究室以外の研究内容を知ることができる研究紹介ツアー、研究体験、施設見学、入試相談等にも参加することができます。</p>		
参考書等	特に使用しません。		
受講上の注意			
高校生へのメッセージ等	皆さんは、「農学部の研究」と聞いてどのような内容をイメージしますか？本講座では、知っているようで知らない「農学部の研究」についてわかりやすく紹介します。また、希少糖生産ステーションと研究圃場を探検し、その秘密についてリサーチします。皆様、ふるってご参加ください。		

高校生限定
夏の体験授業

オープンキャンパス
同日開催

香川大学農学部 サイエンスアドベンチャー2026

開催日時：令和8年8月7日（金）10：00～12：00

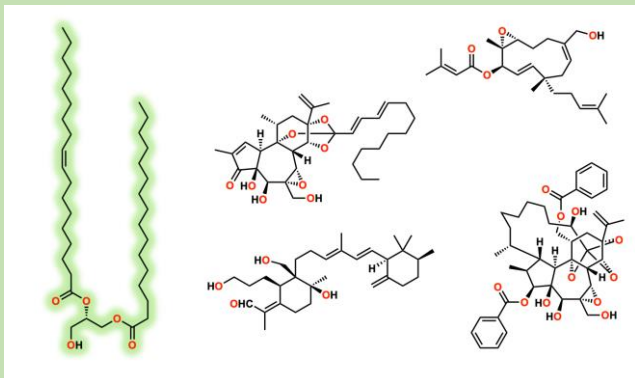
講座名：知っているようで知らない「農学部の研究」

内容：2名の教員による研究紹介の後、希少糖生産ステーションを探検します。

【研究紹介】

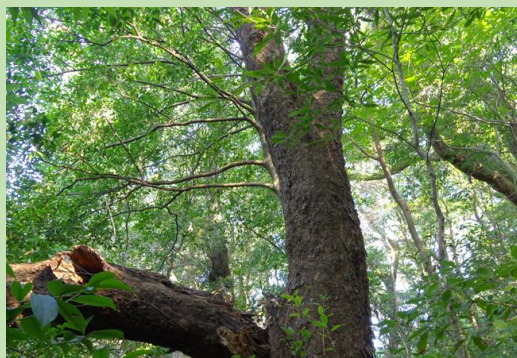
柳田教員

(ケミカルバイオロジー研究室)
魚毒の歴史と天然物ケミカル
バイオロジー研究



豊田鮎教員

(土壌生態学研究室)
土壌生態系の資源と空間を
コントロールする土壌動物について
紹介します。



【施設探索】

希少糖生産ステーション



受付：9：30～10：00 於A303講義室 (A棟3階)

サイエンスアドベンチャーの受付時間は9：30～10：00
です。直接会場のA303講義室へお越しください。

(参考情報：オープンキャンパス)

同日開催の農学部オープンキャンパス午後の部では、研究紹介ツアー・研究体験・施設見学・個別相談会などを実施します。²⁴ サイエンスアドベンチャー参加後に、オープンキャンパスの受付・参加が可能です。※パンフレットを当日お渡しします。

令和8年度行事予定表（昼間）

第1学期

日	月	火	水	木	金	土
4月29	30	31	1 第1学期開始	2	3 新入生ガイダンス	4
5	6 新入生ガイダンス	7 入学式	8 第1学期・第2学期 入学ガイダンス	9 新入生ガイダンス	10 新入生ガイダンス	11 新入生ガイダンス
12	13 授業開始(第1学期)	14 授業開始(第1学期)	15 授業開始(第1学期)	16 授業開始(第1学期)	17 授業開始(第1学期)	18 授業開始(第1学期)
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

(注1)4/29(水・祝)及び7/20(月・祝)を授業日とする。
 (注2)土曜日の授業(・定期試験)予備日は、気象情報の発表等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。
 (注3)オープンキャンパス:8/6は医学部看護学科(午前)、臨床心理学科(午後)、他の学部

第2学期

日	月	火	水	木	金	土
10月	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

(注1)11/23(月・祝)を授業日とする。
 (注2)土曜日の授業(・定期試験)予備日は、気象情報の発表等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。

令和8年度行事予定表（法）- 経済学部夜間主コース

第2学期

日	月	火	水	木	金	土
10月	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16
	18	19	20	21	22	23
	25	26	27	28	29	30
11月	1	2	3	4	5	6
	8	9	10	11	12	13
	15	16	17	18	19	20
	22	23	24	25	26	27
12月	29	30	31			
1月	27	28	29	30	31	2
	3	4	5	6	7	8
	10	11	12	13	14	15
	17	18	19	20	21	22
	24	25	26	27	28	29
2月	31	1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26
3月	28	29	30	31		

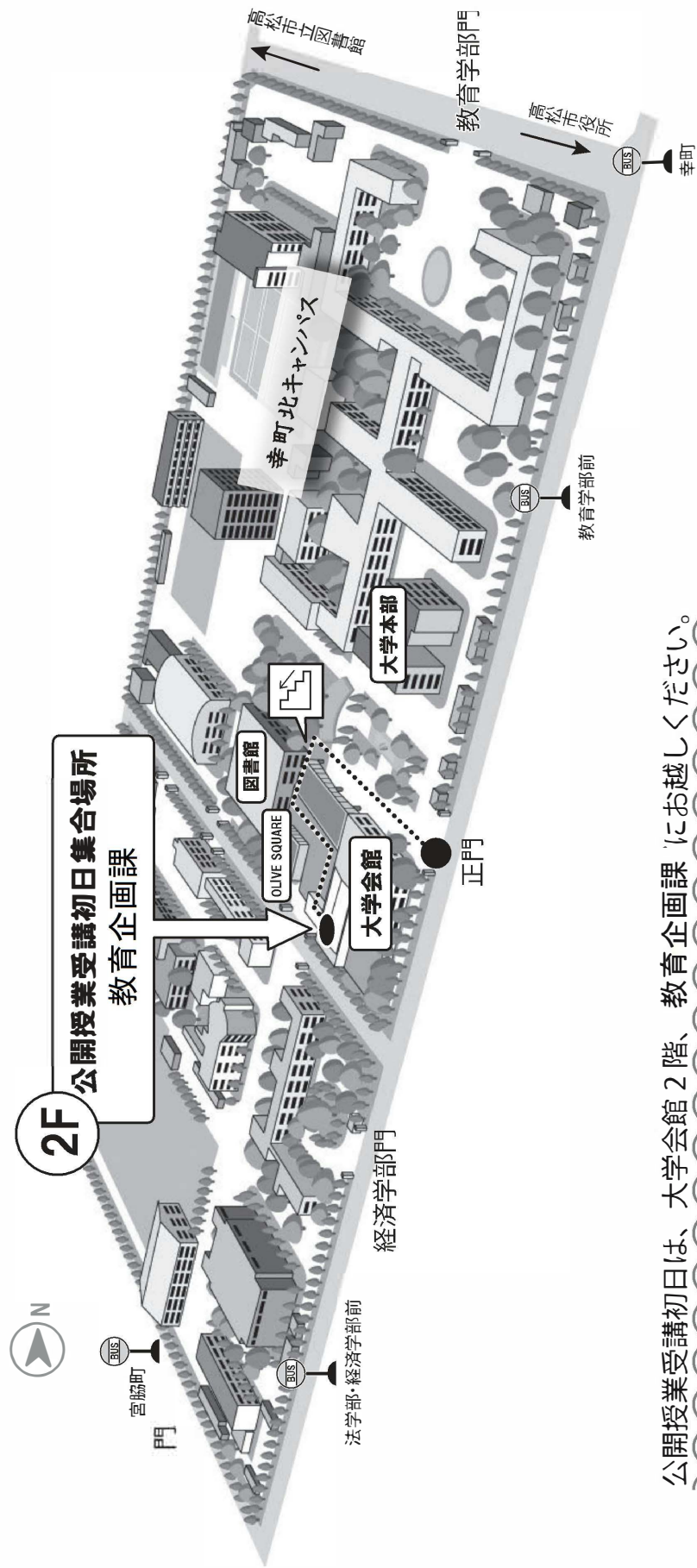
(注1)11/23(月・祝)を授業日とする。
 (注2)土曜日の授業(定期試験)予備日は、気象警報の発表等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。

第1学期

日	月	火	水	木	金	土
4月	29	30	31			
	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24
5月	26	27	28	29	30	1
	3	4	5	6	7	8
	10	11	12	13	14	15
	17	18	19	20	21	22
	24	25	26	27	28	29
6月	31	1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26
7月	28	29	30	31		
	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24
8月	26	27	28	29	30	31
	2	3	4	5	6	7
	9	10	11	12	13	14
	16	17	18	19	20	21
	23	24	25	26	27	28
9月	30	31	1	2	3	4
	6	7	8	9	10	11
	13	14	15	16	17	18
	20	21	22	23	24	25
10月	27	28	29	30	31	

(注1)4/29(水・祝)及び7/20(月・祝)を授業日とする。
 (注2)土曜日の授業(定期試験)予備日は、気象警報の発表等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。
 (注3)オープンキャンパス:8/6は医学部看護学科(午前)、臨床心理学科(午後)、他の学部

香川大学幸町キャンパスマップ



公開授業受講初日は、大学会館2階、教育企画課にお越しください。

各施設所在地
Location Map



▲ 日本語ページ
kagawa-u.ac.jp
/access/



▲ English Page
https://www.
kagawa-u.ac.jp/
en/about/access/

1 幸町キャンパス Saiwai-cho Campus

教育学部/法学部/経済学部/地域マネジメント研究科/創造工学部/創発科学研究科
Education/Law/Economics/Graduate School of Management/Engineering and Design/Graduate School of Science for Creative Emergence

JR高松駅から

- JR高徳線「昭和町駅」下車。徒歩5分
- ことでんバス【11】下笠居線(昭和町経由便)で「幸町」下車。徒歩2~3分
- ことでんバス【13】下笠居線(宮脇町経由便)または【15】香西線(宮脇町経由便)で「宮脇町」下車。徒歩2~3分
- ことでんバス(まちなかループバス)で「香川大学教育学部前」または「香川大学法学部・経済学部前」下車。徒歩1分
- 車で約10分

高速道路から

- 東方面よりお越しの場合…高松中央IC(高松道)から車で約20分
- 西方面よりお越しの場合…高松西IC(高松道)から車で約20分

From JR Takamatsu station

- Take JR Kotoku Line and get off at Showa-cho station, and then 5 minutes walk to the campus.
- Take Kotoden Bus No.11 Shimokasai Line (via Showa-cho) and get off at Saiwai-cho bus stop, and then 2-3 minutes walk to the campus
- Take Kotoden Bus No.13 Shimokasai Line (via Miyawaki-cho) or No.15 Kouzai Line (via Miyawaki-cho) and get off at Miyawaki-cho bus stop, and then 2-3 minutes walk.
- Take Kotoden Bus (Machinaka Loop Bus) and get off at Kagawa Daigaku Kyouikugakubu-mae bus stop or Kagawa Daigaku Hogakubu-Keizaigakubu-mae bus stop, and then 1 minute walk to the campus.
- Approximately 10 minutes by car.

From the express way

- From the east: Approximately 20 minutes from Takamatsu-chuo Interchange at Takamatsu Highway
- From the west: Approximately 20 minutes from Takamatsu-nishi Interchange at Takamatsu Highway

2 三木町医学部キャンパス Miki-cho Campus

医学部 Medicine

JR高松駅から

- ことでん長尾線で「ことでん高松築港駅」→「高田駅」下車。「高田駅」からことでんバスで5分、「大学病院」下車すぐ。
- ことでんバス【75】大学病院線で「大学病院」で下車すぐ。
- 車で約30分

高速道路から

- 東方面よりお越しの場合…さぬき三木IC(高松道)から車で約5分
- 西方面よりお越しの場合…高松東IC(高松道)から車で約5分

From JR Takamatsu station

- Take Kotoden Nagao Line at Kotoden Takamatsu-Chikko station and get off at Takata station, and then take Kotoden bus 5 minutes from the Takata station and get off at Daigaku Byouin bus stop that is just in front of the campus.
 - Take Kotoden Bus No.75 Daigaku Byouin Line and get off at Daigaku Byouin bus stop that is just in front of the campus.
 - Approximately 30 minutes by car.
- From the express way
- From the east: Approximately 5 minutes from Sanuki Miki Interchange at Takamatsu Highway
 - From the west: Nearby Takamatsu-higashi Interchange at Takamatsu Highway

3 林町キャンパス Hayashi-cho Campus

創造工学部/創発科学研究科 Engineering and Design/Graduate School of Science for Creative Emergence

JR高松駅から

- ことでんバス【65】川島線(レインボー通り経由便)で「香川大学創造工学部前」下車すぐ
- ことでんバス【61】川島線「サンメッセ香川」下車。徒歩10~15分
- ことでんバス【63】サンメッセ西植田線で「サンメッセ香川」下車。徒歩10~15分
- ことでん琴平線で「ことでん高松築港駅」→「伏石駅」下車。「伏石駅」からことでんバス伏石駅サンメッセ線で「香川大学創造工学部前」下車すぐ
- 車で約20分

高速道路から

- 高松中央IC(高松道)から車で約5分

From JR Takamatsu station

- Take Kotoden Bus No.65 Kawashima Line (via Rainbow-dori) and get off at Kagawa Daigaku Sozo Kogakubu me bus stop that is just in front of the campus.
- Take Kotoden Bus No.61 Kawashima Line and get off at SunMesse Kagawa bus stop, and then 10-15 minutes walk to the campus.
- Take Kotoden Bus No.63 SunMesse Nishi Ueta Line and get off at SunMesse Kagawa bus stop, and then 10-15 minutes walk to the campus.
- Take Kotoden Kotonira Line at Kotoden Takamatsu Chikko station and get off at Fuseishi station, and then take Kotoden Bus Fuseishi-eki SunMesse Line and get off at Sozokogakubu me bus stop that is just in front of the campus.
- Approximately 20 minutes by car

From the express way

- Approximately 5 minutes from Takamatsu-chuo Interchange at Takamatsu Highway

4 三木町農学部キャンパス Miki-cho Campus

農学部 Agriculture

JR高松駅から

- ことでん長尾線で「ことでん高松築港駅」→「農学部前駅」下車。徒歩2~3分
- 大川バス引田線「農学部前」下車。徒歩5分
- 車で約40分

高速道路から

- 東方面よりお越しの場合…さぬき三木IC(高松道)から車で約10分
- 西方面よりお越しの場合…高松東IC(高松道)から車で約5分

From JR Takamatsu station

- Take Kotoden Nagao Line at the Kotoden Takamatsu-Chikko station and get off at Nougakubumae station, and then 2-3 minutes walk to the campus.
- Take Okawa Bus Hiketa Line and get off at Nougakubu mae bus stop, and then 5 minutes walk to the campus.
- Approximately 40 minutes by car

From the express way

- From the east: Approximately 10 minutes from Sanuki-Miki Interchange at Takamatsu Highway
- From the west: Approximately 5 minutes from Takamatsu-higashi Interchange at Takamatsu Highway

5 教育学部 附属高松小学校 附属幼稚園高松園舎
Attached Takamatsu Elementary School Attached Kindergarten (Takamatsu)

6 教育学部 附属高松中学校
Attached Takamatsu Junior High School

7 教育学部 附属坂出小学校 附属坂出中学校 附属幼稚園
Attached Sakaide Elementary School Attached Sakaide Junior High School Attached Kindergarten (Sakaide)

8 教育学部 附属特別支援学校 **9 農学部附属農場**
Attached School for Children with Special Needs University Farm

10 庵治マリンスターション **11 芸術未来研究場せとうち**
Aji Marine Station Geidai-Katai Setouchi Platform of Arts and Knowledge for the Future

高校生を対象とした公開授業及び体験授業に係る受講生・保護者連絡先

受講生氏名	
受講生電話番号	
受講生メールアドレス	
保護者氏名	
保護者連絡先 (電話番号・メールアドレス)	

※携帯等のメールアドレスは大学（パソコン）からのメールが届かない可能性もありますので、パソコンやWebのアドレスをお持ちでしたら、携帯等のアドレスと併せてご記載ください。

香川大学から受講決定の通知がありましたら、受講初日にこの用紙と受講料をお持ちください。（公開授業は1科目につき、「15及び16回の授業は2,300円」、「8回の授業は1,800円」。体験授業は無料。）

なお、上記の個人情報は、香川大学が高校生対象公開授業及び体験授業の実施に当たり必要な範囲において利用させていただきます。それ以外の目的に利用することはありません。